

ブータンのグロスナショナルハピネス (GNH・国民総幸福量)

三多摩支会 国際部

櫛田 正昭

1. 留学生を囲んでの「トークの会」

皆さんは「トークの会」と言う名前をお耳にされたことはありませんか？

多分大部分の方は、ご存知無いと思いますが、月1回、日本で学んでいる留学生に声を掛けて、お国の事情、経済、文化、生活、習慣、日本に対する感じ方、印象などをざっくばらんに話して貰って、その後こもごも質問をしたり、ディスカッションをしたりしているボランティアベースの留学生を支援する勉強会兼飲み会です（発表する留学生は各回原則1人です）。毎回2～30人位が集まる小さな会ですが、もう今月で110回を数える長い活動を重ねています。留学生にも参加を募り、スキーに行ったりテニスをしたりすることもあります。

2. ブータン留学生のプレゼンテーション

少し前になりますが、ブータンからの留学生デキ・チョーデンさんをお招きして、「ブータンとGNH（グロス・ナショナル・ハピネス。国民総幸福量とでも訳すのでしょうか）」というテーマでお話をうかがいました。デキさんはブータンの高校を卒業した後來日し、東京外大で日本語をブラッシュアップした後、一橋大学法学部に入学し国際関係論を学んでいます。自然を愛し、ブータンを思い浮かべて山に登るのが好きという心優しい女性ですが、将来は外交官を志望とはっきりした目標を持ち、日夜勉強に励んでいるとのこと、意思の強さも持ち合わせているように見受けられました。

デキさんのお話はまず故国ブータンの紹介から始まりました。ブータンは、九州とほぼ同じ面積の国土にわずか66万人の住

民が居住し、主要産業は農業・林業にとどまる（後の話に繋がりますが）経済的には開発の遅れた国です。民族の80%はチベット系でチベット仏教を信仰しています（残りはネパール系で、民族問題を抱えています）。



【ブータンの国勢】

1. 面積：46.5 千平方キロ（九州の1.1倍）
2. 人口：約66万人（07年、世銀資料）
3. 民族：チベット系（約80%）
ネパール系（約20%）
4. 言語：ゾンガ語、公用語：英語
5. 宗教：チベット系仏教、ヒンドウ語
6. 政体：立憲君主制
7. 産業：農業、林業
8. GNP：1170百万ドル
9. 一人当たり国民所得：870ドル
10. 輸出：電力、珪素鉄

3. グロスナショナルハピネス

(GNH・国民総幸福量)

現国王は5代目ですが、前代、前々代の国王が聡明で、鎖国状態にあったブータンを国際社会に開くと共に、国の発展・近代化の努力を行ないました。そしてその過程で経済開発至上主義に疑問を持ち、自ら考え提唱したのが本稿のテーマであったGNHです。考え方が示されたのは相当以前に遡ります。1976年には非同盟小国会議の場で、国王は、GDPより精神的な豊かさが大切であると主張しこのGNHの概念により国を運営することを提唱しています。デキさんの

説明によれば、国王は、従来の（先進国による）GNP の増加を目指した経済開発は貧困問題、南北問題、環境破壊、伝統的文化の喪失に繋がっており、代わって、人間の幸福の増大（GNH）を目指すべきだと考えられたとのこと。その為の主要な柱として、

- ①継続可能で公平な開発
- ②自然環境の保護
- ③有形・無形の文化の保護
- ④良い統治

の4項目が示されました。幸福（度）は数量的に計れないものと一般的には考えられていますが、デキさんによれば、ブータンでは1999年に至って国立の研究センターが設立され、研究に取り組んできており、下記の9点が幸福の要素と考えられているとのこと。

- ①living standard（基本的な生活）
- ②cultural diversity（文化の多様性）
- ③emotional well being（感情の豊かさ）
- ④health（健康）
- ⑤education（教育）
- ⑥time use（時間の使い方）
- ⑦eco-system（自然環境）
- ⑧community vitality（コミュニティの活力）
- ⑨good governance（良い統治）

デキさんからは、GNPでは社会の進歩、お金の量は測れるけれども、幸福の度合いは測れないということが強調されました。交通事故が起こった結果、GNPが増加しても意味が無いのではないか、家族のための家事の時間、孫と穏やかに過ごす時間はGNPには反映されていないではないかななどの例も引かれました。GNPの概念は憲法の条文にも組み込まれていて、ブータンはこれらの項目の改善を進めることによって、国民の幸福度を押し上げていく考えのようです。

4. 尽きないディスカッション

デキさんの説明が一通り終わると、会場は質問と意見で溢れました。出席者のほとんどの方が発言されましたが、それは、テーマが我々の人生観そのものに結びついているからでしょう。

議論は限りなく続きました。

★ 「GNHを具体的にどう測ろうとしているのか」、「絶対評価が出来るものなのか」、「国際比較は出来るのか」、といった類の疑問がまずあげられました。デキさんからは、具体的な手法まではうかがえませんでした。上記の9項目が相対的に改善していくことを確認することで、国全体のGNH増加が図られるのが重要ということでした。

★ 昨年ブータンを旅したという参加者の方は、村で会った人から「私は幸せでない。いつかは死ぬと考えると幸せとは言えない」と話されたことを紹介されていました。政府が90%の国民は幸せと感じていると発表しているとの話に対する疑問の投げ掛けでした。私は、個人的に「死に対する恐怖まで考慮して幸福量を測るとなると、これは大変なことだ。人間の価値観はいろいろ違う筈だから、幸福度を絶対量で測ったりすることは難しいのではないかと改めて感じました。政府が政策として、GNHを使っている政治的な側面にも留意すべとの意見が他の参加者から出されました。

★ また、ブータンの家庭を実際に訪問した経験のある参加者の方からは、ブータンの家庭では、家族の中で「幸せとは何なのか」ということが日常的に話されているというお話がありました。今の日本は、家庭内で会話は減っているし、話題も経済的な話になってしまっているのに比べて、幸せというもの

を哲学的に話しているとのことでした。他の参加者からは、背景として、チベット仏教への帰依との深いかかわりが指摘されました。(大乘)仏教が生活に深く浸透していて、精神面の話が受け入れられやすいのでしょうか。

- ★ 若干失礼とも思いましたが、デキさんに対し率直な質問もありました。「デキさんはこの豊かな日本と不便なことが多いブータンとどちらに暮らすのが幸せだと思いますか？」 答えは素早く明確でした。「勿論、ブータンです。家族と一緒に住むことは本当に幸せなことだと思います。」これに、ウズベキスタンから留学してきているジャスさんが呼応して発言しました。「私も、勉強のために日本滞在は長くなっていますが、矢張り、ウズベキスタンに帰って仕事をしたいとおもいます。日本関係の仕事が出来れば最高ですが。」そう、昔の日本人留学生も同じ意見だったでしょう。日本は物質的に豊かな国ですが、彼らの故国になるわけには行かないでしょう。

5. 世界の関心度はますます高く

家に帰って若干の文献に当たると、例えば去年の夏にJICAがブータンGNHセミナーをやっていて、そこで、国家計画委員会長官のカルマ・ツエーテム氏が講演を行っていることを知りました。そして、ブータンにも(第10次)5カ年計画があることを確認したのですが、同時にこう述べていました。「GNHは幸福を量るものではありません。政府として国民の幸福感を満たすために何をすべきか、を理解するための指標です。GNHは従来の経済発展を中心とした開発指標策定にはなかった視点を補うことにも大きな意味を持っています。GNHは国の進むべき道がどこに向かうべきかを見当て

る地図のようなものと言えるでしょう。」このほか多くの国際会議が開かれているようです。

更に先日平成22年10月18日の日本経済新聞は、ブータン国立研究所のカルマ・ウラ氏へのインタビューを6段のコラムで大きく報じています。「ブータン・独自の経済指標で国づくり」「国民総幸福量・政策評価に重要」「金融危機で関心高まる」などの見出しが打ってありました。「国民の幸福度をどうやって測るのですか」と言う記者の質問に対して「2年ごとに聞き取り調査をする。合計72項目の指標があり、これを数値化して、暦年変化や地域ごとの特徴、年齢層による相違などを把握する」と答えています。

6. 終わりに

議論は尽きそうにありませんが、幸福度(量)を国の政策のメジャーに使い、行き過ぎた開発には一定のブレーキをかけている国が現実に存在することは大きな驚きでした。個人的に総括すると、精神的なものである幸福度(量)を絶対的に捉えるのは、難しいけれども、物質面と精神面のバランスを取りながら、何が幸福なのか、個人の価値観に基づいて考えることが大切という極めて常識的な結論に至りました。そして、これからは、物質的な幸せの追求はそこそこにして、もっと心の面を大切にしたい時間の使い方をしていきたいと感じた次第です。

【ご参考：留学生交流会のお知らせ】

きたる2010年12月11日(土)に東京支部国際部主催で、第8回「在日留学生との国際交流会」が開催されます。「企業戦略としての留学生と活用の実践」という大変興味深いテーマです。今回は三多摩支会国際部が当番幹事に当たり、支会国際部の総力を挙げてサポートしています。三多摩支会

の会員の皆様には一人でも多くのご参加を期待しております。留学生の方が沢山参加されますから、直接お話いただく機会も多くあると思います。

詳細は、三多摩支会ホームページ (<http://www.basic.ne.jp/santama-shikai/>) でご案内しております。また、中小企業診断協会会員の方は、中小企業診断協会本部 HP (<http://www.j-smeca.jp/>) の MY ページより申込が可能です。

以 上